

活動に参加した学生の声



能塚美咲さん
(教職課程科目等履修生)

Q1.ラーニングサポーターに応募した動機をお教えてください。

特別支援学校教諭免許状の取得を目指しており、実践的な児童生徒との関わりが更なる自身の学びに繋がると考えたからです。学内を越えた活動の中で直接関わりが持てる機会は貴重だと感じました。また、コロナ禍で増加した不登校児童生徒に目的が学校復帰でない、私との交流で視野を広げるきっかけになればと考えたからでした。

Q2.サポーター活動での学びについてお教えてください。

一番の不安はオンラインだということでした。会話の間や表情等、対面しないと分かりにくいことはありますが、オンラインでしか繋がれない出会いとなり、家にいても誰かと繋がれる感覚ができました。その中で児童生徒を承認し、関係性を築いていきました。また生徒児童にとっては人との出会いにより視野が広がり、対人関係や未来に希望が持てたような明るい言葉が聞けるようになりました。本活動の目的に近づくことができ、達成感がありました。児童生徒の前向きな気持ちにより、具体的な行動に繋がるとさらに嬉しく、不登校児童生徒の成長が私にとっても貴重な学びの機会になりました。

Q3.サポーター活動へのお誘い

教職、教育、福祉、心理等に興味のある学生、それ以外にも自身の関わりで不登校児童に何かできないかと思われた方はぜひ一緒に取り組み、不登校児童生徒の明るい笑顔や言葉のきっかけになりましょう。



南紗絵さん
(文学部社会福祉学科)

Q1.ラーニングサポーターに応募した動機をお教えてください。

「不登校の子ども」と関わることのできる貴重な体験ができることから、将来、教員になるうえで役に立つと感じ、応募しました。

Q2.サポーター活動での学びについて教えてください。

学習面のサポートを行った際に、その子の年齢や個性などを踏まえ、苦手な教科でも興味をもって楽しく学び、「わかる」ことの喜びや達成感を味わうこと、また、それらの気持ちを自分や保護者の方と共有したりできるような学習の支援の仕方を自分なりに考えることができました。私が学習支援を行った際に、特に達成感を感じたことがあります。それは、何度かマッチングした子どもから、「僕もうこれ解けるよ！」と自信に満ち溢れた言葉を聞いたことです。1度目のマッチングの際に、全く解けなかった問題が、2度目のマッチングの際には、自分が教えたことをしっかり復習して、自ら答えを導いて、自信満々に私に答えを見せしてくれました。そのキラキラした表情を見て、私も心の底から喜びを感じました。このような経験もあり、教師になりたいという自分の夢に対する思いがさらに揺るぎないものになったと感じます。

Q3.サポーター活動へのお誘い

私は、このサポーター活動を通して、「不登校の子ども」に対するイメージを変えることができました。また、子どもたちから、教師になるという夢に対する思いをより一層高めて貰いました。新しい発見が沢山得られる活動です。ぜひ、積極的に参加してみてください。



戸高日奈子さん
(心理学研究科 臨床心理学専攻 前期博士課程修了)

Q1.ラーニングサポーターに応募した動機をお教えてください。

私は、心理学研究科臨床心理学専攻に所属しており、将来は子どもたちに対して支援をする心理士として働きたいと考えています。現代は、オンライン社会となっており、心理士もオンラインとしての業務が増えつつあります。そこで、私も将来は、世界中どこからでも支援できるオンラインを利用した心理士になりたいと考えています。

そのため、今回の不登校児童・生徒へのラーニングサポートボランティアでの経験は、将来にも役立つと思い応募しました。さらに、これまで学んだ臨床心理学視点や部活動でのボランティア経験を活かして不登校児童や生徒に対してのラーニングサポートができるのではないかと思ったことも応募したきっかけです。

Q2.サポーター活動での学びについて教えてください。

ラーニングサポーターでは、実際に学校に行くことが難しい児童・生徒さんとオンライン会議システムを利用して勉強をしたり話をしたりしました。オンラインを通しての児童・生徒さんとの関わりは初めてでしたが、対面と同じような感じでお話することができたと思います。最初は緊張していた児童・生徒さんも、時間が経つと笑顔が見られ、私自身も楽し

く、あっという間に時間が過ぎていました。この事業に参加することで、対面でなくともオンラインというシステムを利用することで世界中どこからでも支援することが出来ると感じました。

Q3.サポーター活動へのお誘い

児童・生徒さんと一緒に勉強をしたり、お話するのはとても楽しいです！特に、子どもたちの楽しそうな笑顔や、最後に「ありがとうございました！」とお礼を言われるのはとても嬉しいし、この活動に参加して良かったなと思います。サポーター活動をしてみたいな～、やってみようかな…と悩んでいる方やご興味のある方、ぜひ活動に応募してみてください。きっと素敵な時間を過ごすことができると思います。



七種麻由香さん
(文学部心理学科)

Q1.ラーニングサポーターに応募した動機をお教えてください。

応募した動機は主に2つありました。1つは自分が過去に学校を窮屈に感じて苦手に思っていた時期があったことに起因します。似たような立場だったからこそ子どもたちと共感できることもあるのではないかと思います、少しでも子どもたちに寄り添えられたらと応募しました。2つ目は学生である今の自分でも何かできることはないかと考えたからです。心理職を目指して勉強はしているものの、私は経験も知識も足りていない学生です。しかし、この期間にもできることを増やしたいと思い、思い切って応募しました。

Q2.サポーター活動での学びについてお教えてください。

活動していく中での学んだことは、子どもたちにとって心地の良い話し方や聞き方です。こういったコミュニケーションが彼らの心をほぐして寄り添える存在になるのか試行錯誤の半年でした。まだまだ課題は多く、改善すべきこともあります、実際に児童生徒と触れ合って以前に比べるとどのようなふれあい方がより親しみやすく受け取られるのか考えられるいい機会になりました。また、子どもたちは好きなものやことについてたくさん話してくれて、私の知らない世界を教えてくださいました。そこから私も興味がわいて調べてみることで、新たな知識を得ることが出来ました。

Q3.サポーター活動へのお誘い

活動を通して、相手の子どもたちが「来年度は学校行ってみようと思う」などの前向きな発言を聞く機会がありました。そうした子どもたちが少し成長していく瞬間を見られることがとても嬉しく、こちらにも元気をもらえました。「不登校児童生徒支援」と聞いて、何をしたら、どう接したらいいかわからないと不安に思うかもしれません。しかし、子どもたち

はこちらが考える以上にこちらに自分の意思をきちんと伝えてくれました。また、教育センターの担当の方も不安なことやわからないことがないか親身になって話を聞いてくれるので、安心して活動が行えます。少しでも興味関心のある方はぜひ参加してみてください。



坂本望有佳さん
(文学部心理学科)

Q1.ラーニングサポーターに応募した動機をお教えてください。

中学生の頃、不登校になった親友がフリースクールに通いだし表情が明るくなったのを見て、自分も将来親友のような不登校の子どもたちの支援に携わりたいと考えるようになりました。大学生になり不登校支援のボランティアやアルバイトをずっと探していました。そんな時、ラーニングサポーター事業の募集をしていることを知り、応募しました。

Q2.サポーター活動での学びについてお教えてください。

一人ひとりに合った学習方法を検討したり、学習前のアイスブレイクで生徒の緊張をほぐす方法を考えたりするスキルを学び、伸ばすことが出来ました。

Q3.サポーター活動へのお誘い

初めは上手くサポートを行えるかととても不安でしたが、支援した生徒が学習を理解し、嬉しそうな表情を見せてくれた時はとても嬉しかったです。こんな素敵なお縁はないと思います。